東大和市の“今”を伝えたい・・・
市議会議員

2013年8月25日

和地ひとみレポート No.93

小平市、東大和市、武蔵村山市の３市の市長参加の三市共同資源化事業説明会を開催

重要性の増す行政の説明力と交渉力

■３市の市長も参加の住民説明会

…東大和市は「小平・村山・大和衛生組合」に所属しており、ごみの処理を組合で行っています。可燃ごみなどは東大和市駅の南側にある焼却施設（通称：えんとつ）で処理していますが、資源ゴミに関しては各市で分別などの処理を行っています。平成 17 年８月に組合員である３市が「資源物(プラスチック等)の共同処理について」確認を行い、共同処理施設設置の検討に入りました。３市のアクセス面などの理由から、紆余曲折ありましたが、現在は桜が丘にリサイクル施設を建設する計画となっています。処理施設を分散させるという考えからみると、小平市、東大和市と市は違いますが焼却施設と近すぎること、近くに給食センター建設が計画されていること、多くのマンション、住宅のある地域のため健康被害や交通渋滞が懸念されるなどの理由で、現状では周辺住民の方からの理解は得られていない状況です。

…今年の２月から３月にかけ、リサイクルセンター建設について地域住民説明会４回、３市市民説明会３回、出前説明会 １ 回が開催され、のべ３１９名の参加者があり、住民と組合の考えの乖離などが明らかになりました。そして、その結果報告書をもっての説明会が８月２０日に東大和市中央公民館にて開催され、説明会には３市の市長ならびに組合幹部なども参加。近隣住民を中心に約１７０名が参加したほか報道関係者も多く来場しました。

■相手の立場に立った答弁の必要性

…今回の説明会で配布された資料では、過去の住民説明会で出た主な質問、意見がまとめられている他、各市、組合の考え方と説明会に参加された方々の考え方との相違点の比較表などがあり、まとめとし『説明会で見えてきた事業の課題』として「３市全域での住民の意見集約がなされていないこと」「参加者の多くは事業や計画へ反対の立場であったこと」「説明した内容と参加者が説明会で聞きたかった内容に開きがあったこと」「(来年) 3月までの事業説明ではなく時間をかけた説明が求められていること」「継続して協議をしていくような説明会ではなかったこと」と大きく５点を明示。そして最後に『今後の事業について』の住民理解については「過去の事業の進め方に対する不信感を持っていること、事業に対して説明会参加者が望むような参画できる機会もないことから、事業に対する不安が増しており、現時点では、説明会の状況から判断すると、参加された地域住民の事業に対する理解が得られたとは言い難いものである」と概ねなっており、事業者の考え方については「(略) 喫緊の課題に取り組んでいくために、３市のごみ処理の枠組みの中で重要な位置づけと認識し、市民生活に必要不可欠な施設として、3 市が共同して公設で設置していく必要があることを再確認した。(略) 時間の猶予がないなかで、事業の理解を深めていただくために、地域住民を含め、3 市全域にわたっての説明を継続して行い、住民が参画できる枠組みの検討等を行い、住民の信頼を得て事業を進めていくことが必要であると考える。」となっています。

…この報告書の内容から見て、今回の説明会で住民が求めている資料やデータ、また、出てくる質問は想定できます。しかし、求められているデータや資料は準備されておらず、参加者からの質問への多くの答弁も「会話が噛み合っていない」ような内容。例えて言うなら「明日は晴れると思いますか」というようなシンプルな質問に対して「地球温暖化が進み平均気温が上がっています…云々」といったような一見関連して見えるような答弁でも質問が求めているシンプルな答弁は出てこないような状況です。もちろん、一つの組合を組織しているとはいえ、3 つの市の交渉の中で進められていることですから、言えることと言えないことはあるかもしれません。しかし、ここまで問題がこじれてしまっている状況の場合、相手の立場に立ち、求められている内容の答弁をしなければ、不信感が増加してしまう恐れは大です。

■行政の説明力と交渉力

…この事業の計画一つをみても、大きな事業に関しては１０年越しで計画されるものも少なくありません。東大和市の現市長はこの事業が問題を含んだ状態から引き継いだ状況の中、真摯に信念を持って取り組んでいる姿が見て取れます。もちろん市の長である市長の責任はまぬがれませんが、行政の組織の仕組み上、長期的に計画する事業については、やはり現場で実際に関わっている職員の力が影響することは否めません。

…実はこの他の東大和市の大きな事業についても関係する市民、近隣住民の方の理解が得られず、問題になった、もしくはなっている事業が東大和市にはあります。様々な問題を総合的に見て感じることは、企業だったらどのように進めるだろうということ。「市にとって（今回のリサイクルセンターについては３市にとって）絶対に必要な事業だ」ということを理解して欲しいのなら、関係者に理解してもらえるような方法を最初から取っていかなければならず、起こりうる問題を予測し、先手、先手で対処しながら事業を進めていくのではないでしょうか。準備不足、甘い予測のために起こった問題を解決するためには何倍ものパワーが必要になることはよくある事で、それは時間と経費の無駄につながります。

…今の時代、ますます行政には相手が納得し協力する説明力が求められています。事業の担当者が状況を把握し、理論を整え、信念を持って説明しなければ相手は納得しません。昔のように「役所が決めたことだから」と手放しに従う時代ではないのです。また、他市や近隣住民などとの交渉についても今まで以上に考える必要があります。時々耳にする「東大和市はのんびりしている」「東大和市は後手が多い」という市民の声。財政的にゆとりのある時代ならまだしも、1 円の税金も無駄にできない状態の中、事業をできる限りスムーズに進めることは重要なことです。事業が実現化しなくなった時の全市民が受ける損失、影響への責任が行政にはあります。このような問題の解決方法の第一歩は、今までの「お役所スタイル」からの脱却ではないかと思います。